

将来世帯数推計結果からみる 中高年層の多様化

令和7年3月18日(火)

厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所
人口構造研究部 第2室長
(前中野区地域包括ケア推進担当部長)

藤井 多希子

社人研が行っている推計の種類

令和2年国勢調査



日本の将来推計人口
(令和5年推計)

R5.4.26公表



日本の地域別将来推計人口
(令和5年推計)

R5.12.22公表



日本の世帯数の将来推計
(全国推計)
(令和6年推計)

R6.4.12公表



日本の世帯数の将来推計
(都道府県別推計)
(令和6年推計)

R6.11.12公表



今回推計の手順

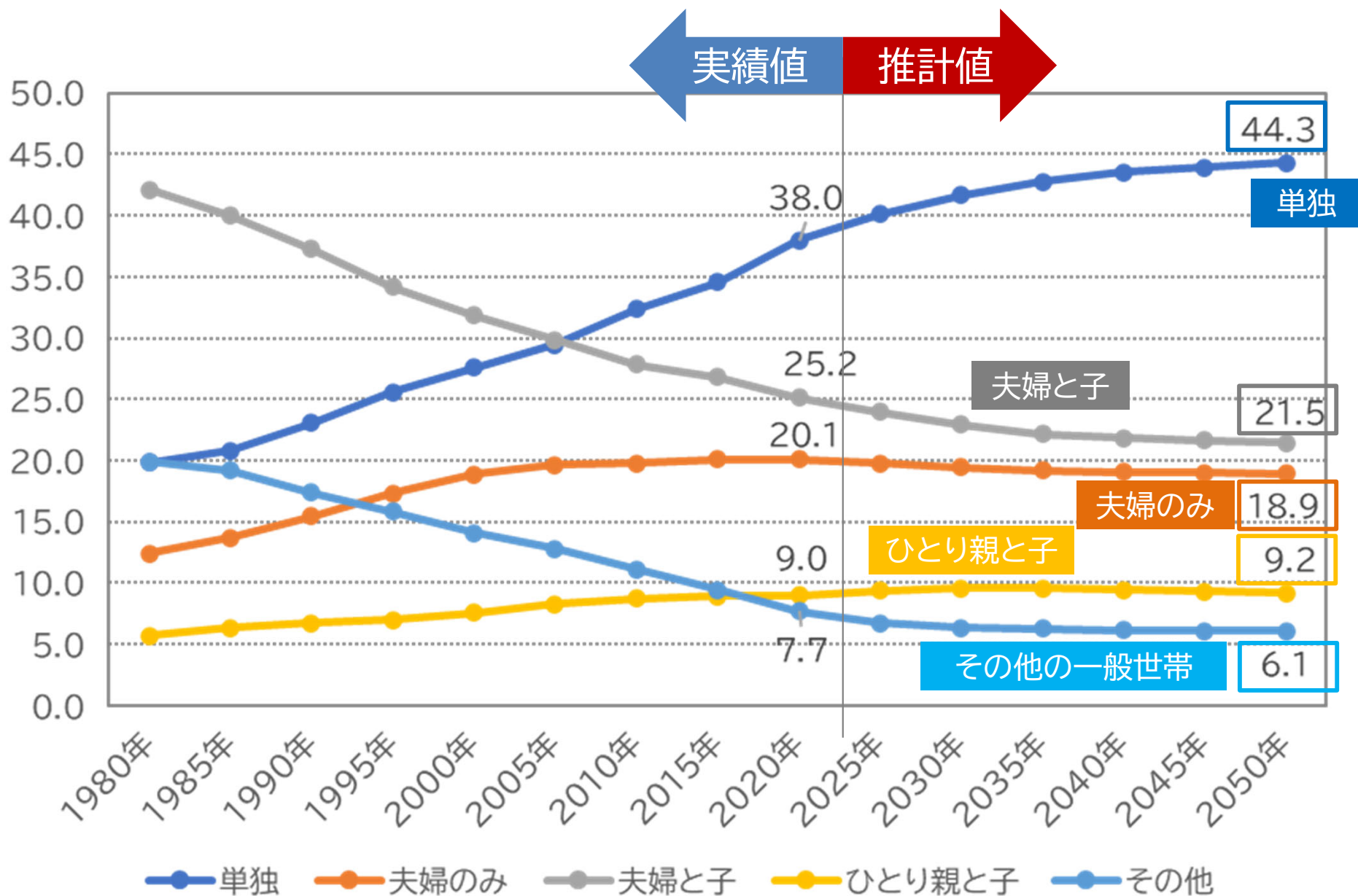


将来の**配偶関係別**
人口を推計
(未婚・有配偶・離別・死別)

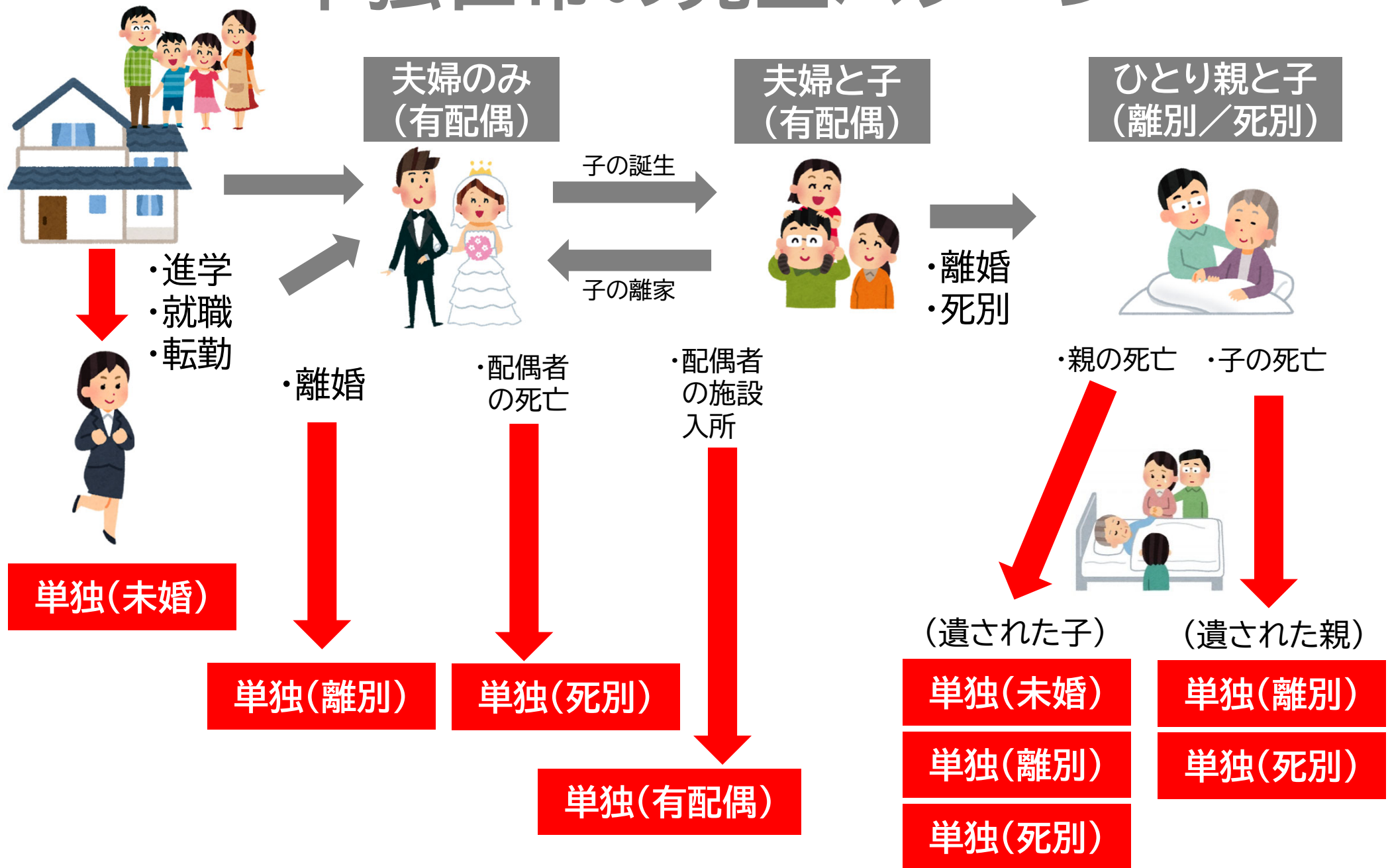
男女・年齢別配偶関係
別に**世帯主**を推計

5つの家族類型に配分
(単独／夫婦のみ／夫婦と子
／ひとり親と子／その他)

一般世帯の家族類型別割合



単独世帯の発生パターン



なぜ単独世帯は増えるのか？

未婚者の増加

- ・65歳以上男性の未婚者は、124万人(2020年)→380万人(2050年)
65歳以上女性の未婚者は、99万人(2020年)→317万人(2050年)
- ・若年・未婚・単独世帯→そのまま高齢化して高齢・未婚・単独世帯に
- ・8050世帯→「ひとり親と子」→高齢・未婚・単独世帯に

3世代世帯の減少

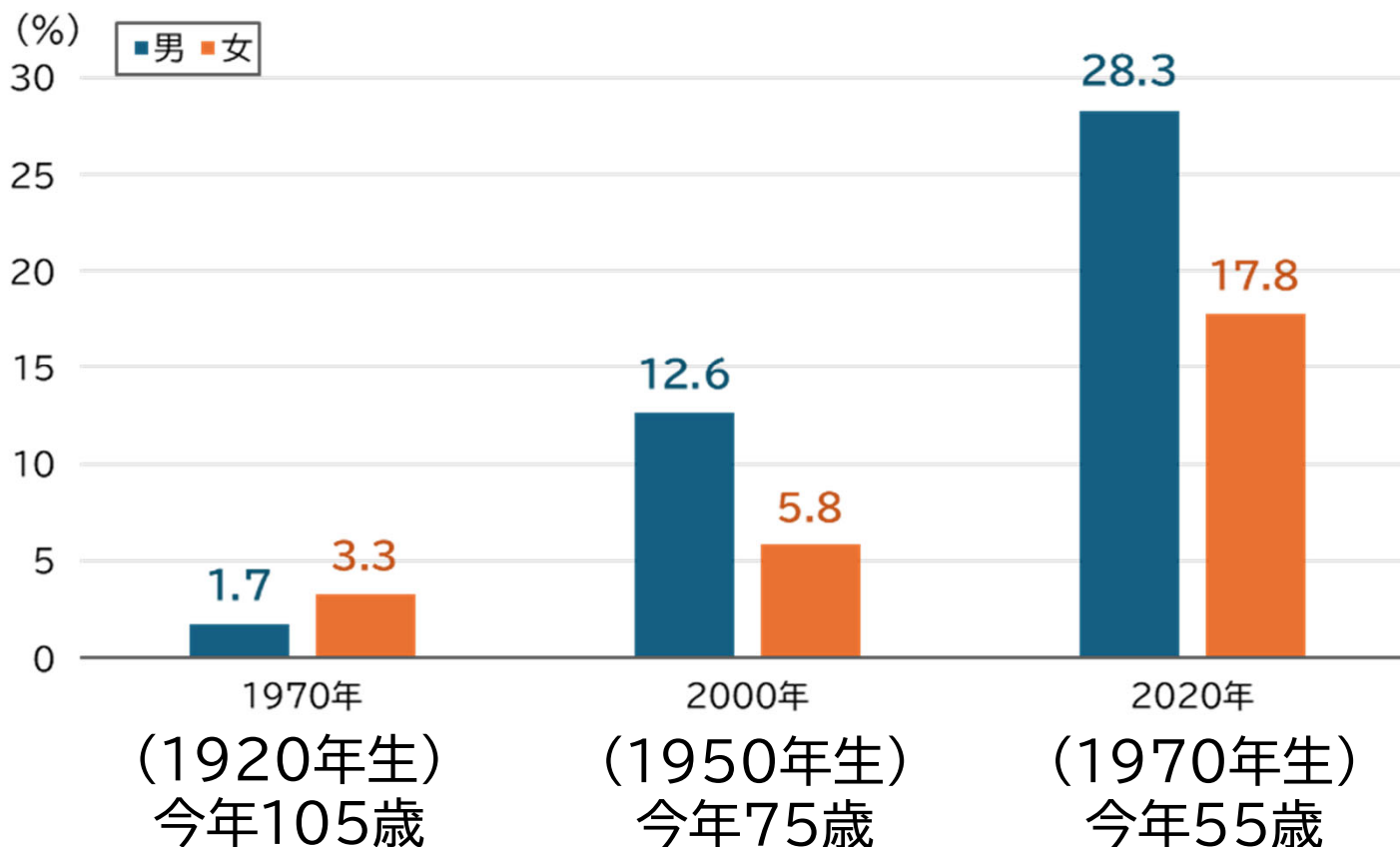
- ・過去25年間に、「3世代世帯」は524万世帯(1995年)→234万世帯(2020年)へと半減

子のいない夫婦の増加

核家族の高齢化

出生コホート別にみた未婚者割合の比較

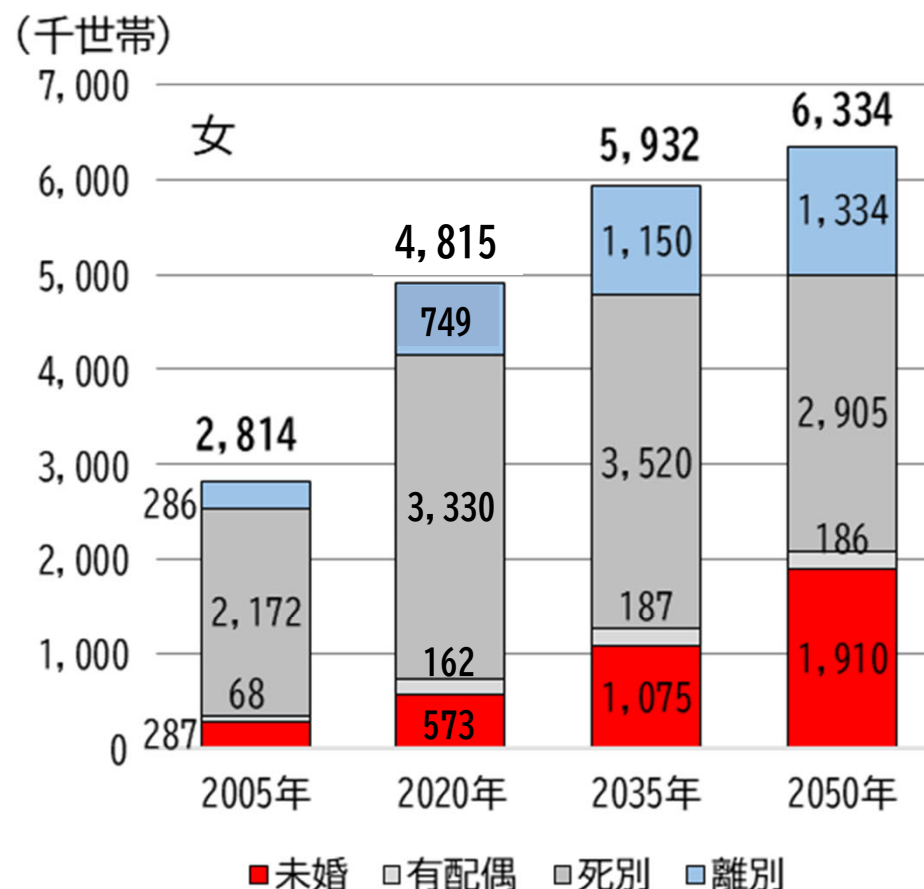
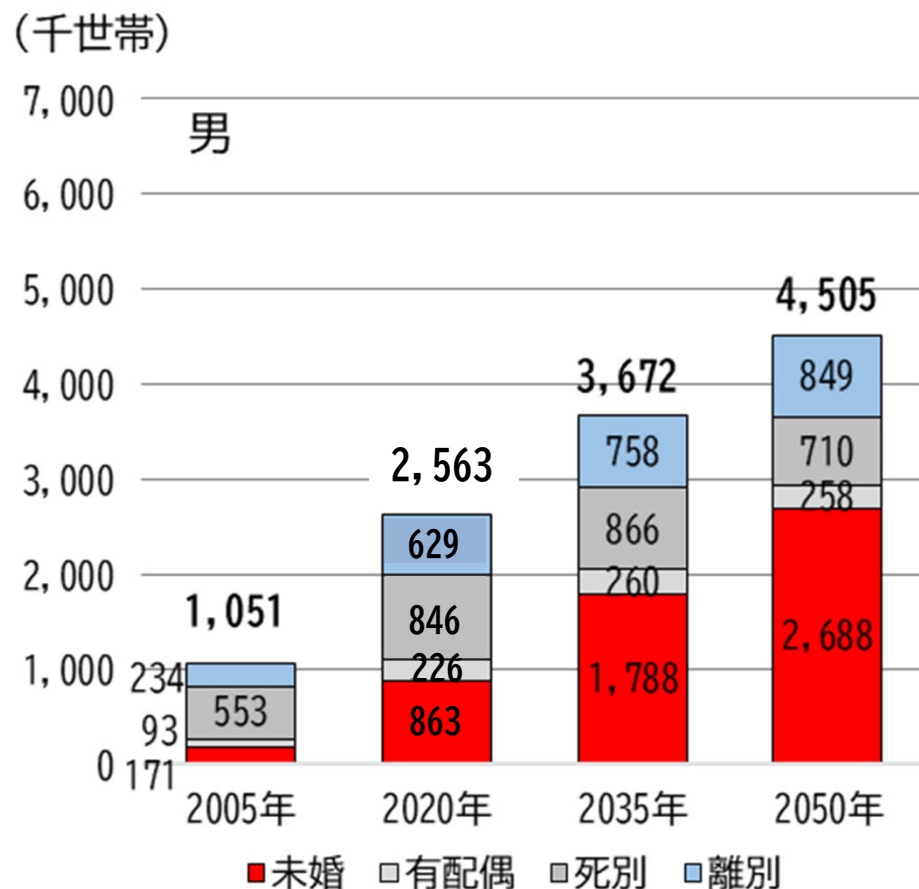
50歳時の未婚者の割合



団塊ジュニア世代(今の50代前半)は
男性の3割弱、女性の2割弱が未婚者

急増する高齢単独世帯

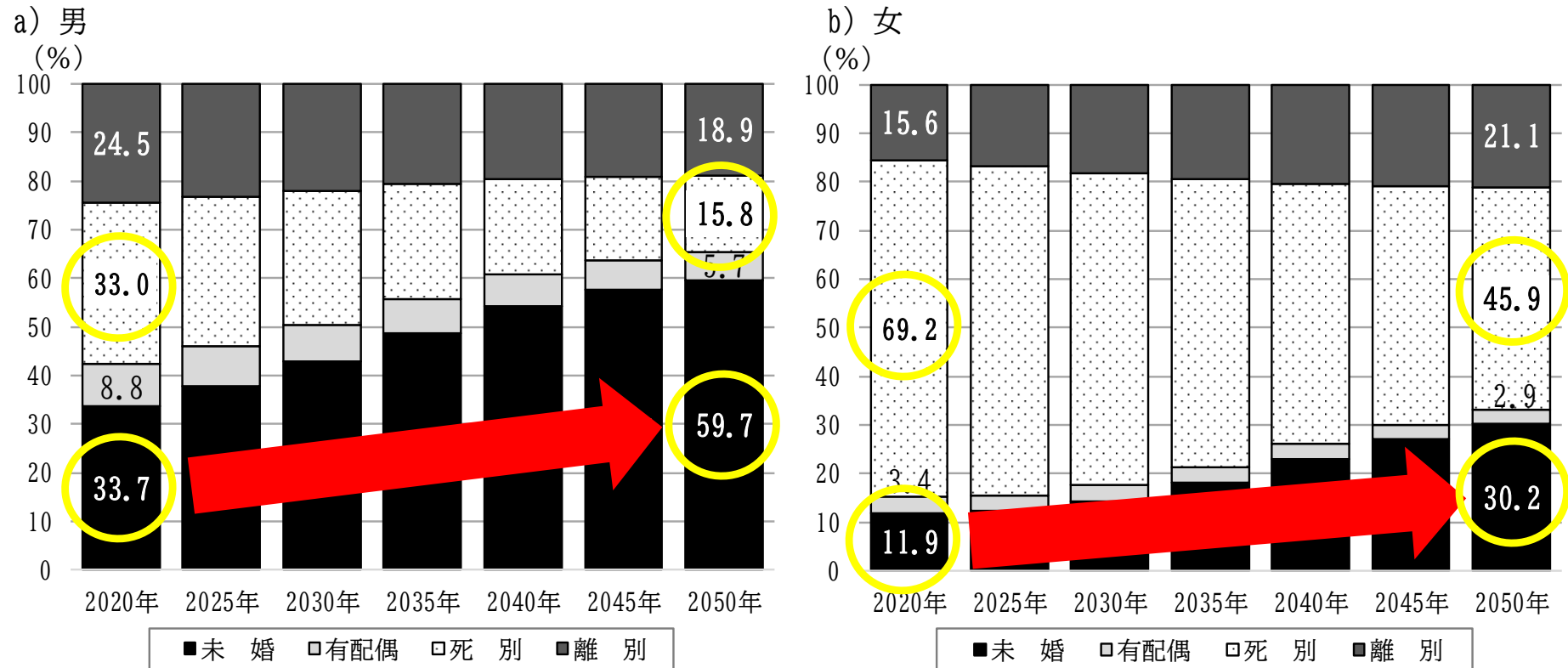
配偶関係別にみた65歳以上の単独世帯数



65歳以上の「単独世帯」は386.5万世帯(2005年)→
737.8万世帯(2020年)→960.4万世帯(2035年)
→1083.9万世帯(2050年)へと増加

急増する未婚の高齢単独世帯

65歳以上単独世帯における配偶関係の割合

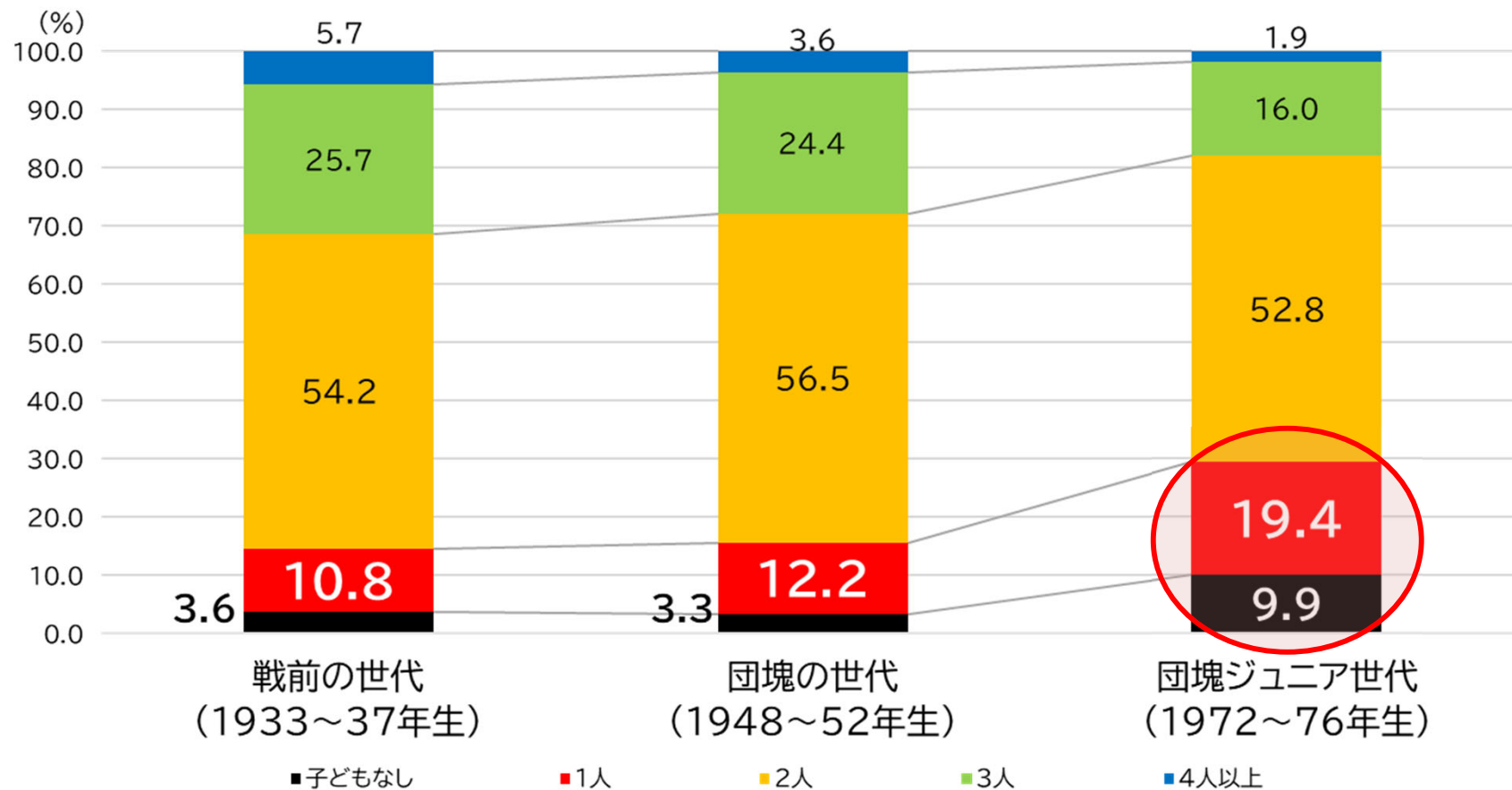


男の65歳以上の単独世帯のうち
約6割は未婚者

女の65歳以上の単独世帯のうち
約3割は未婚者
(死別の割合が大きく低下)

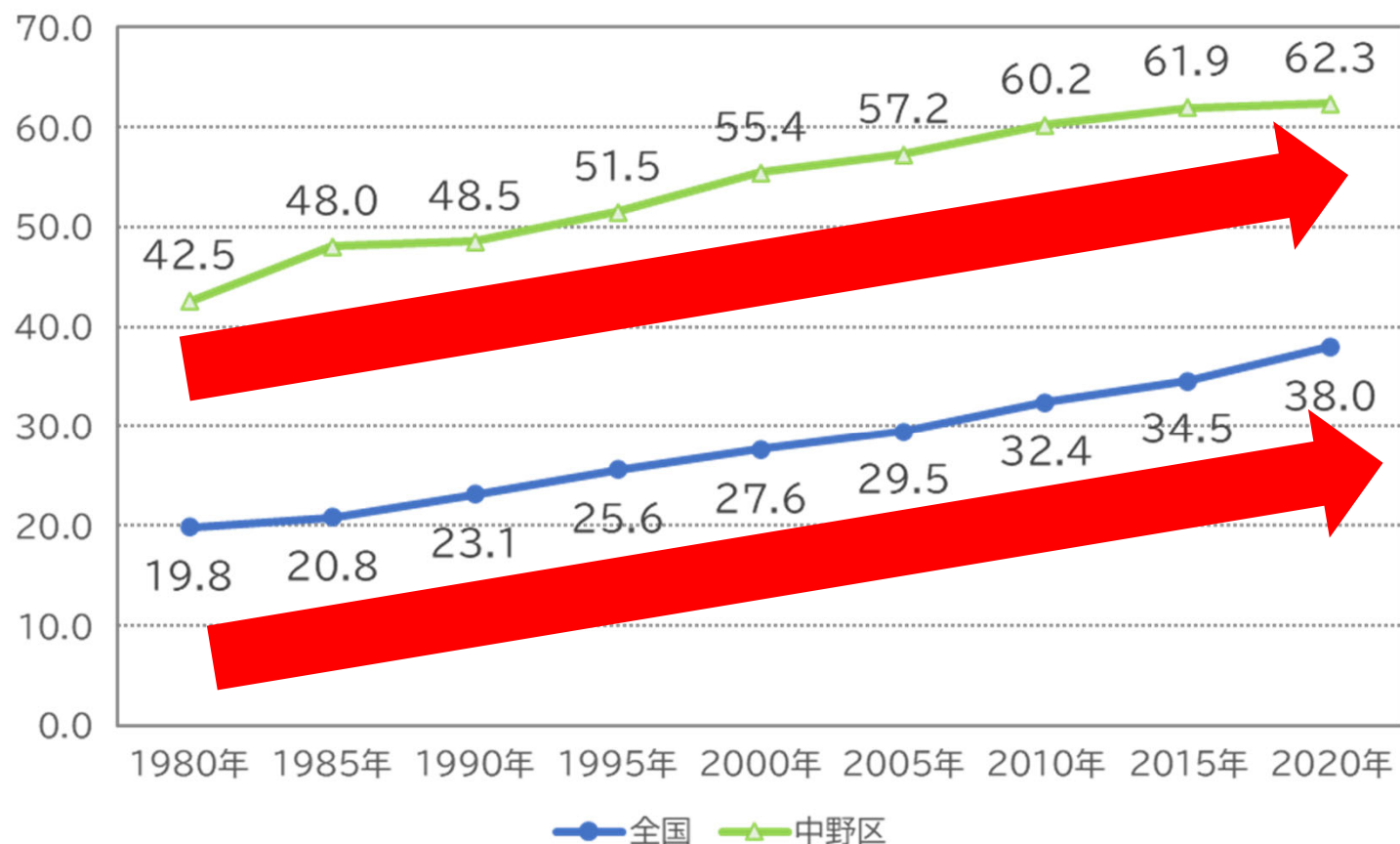
世代による出生子ども数の違い

妻45～49歳夫婦の出生子ども数



団塊ジュニア世代の夫婦の1割は子どもなし、2割は子ひとり

単独世帯割合の比較(全国、中野区)

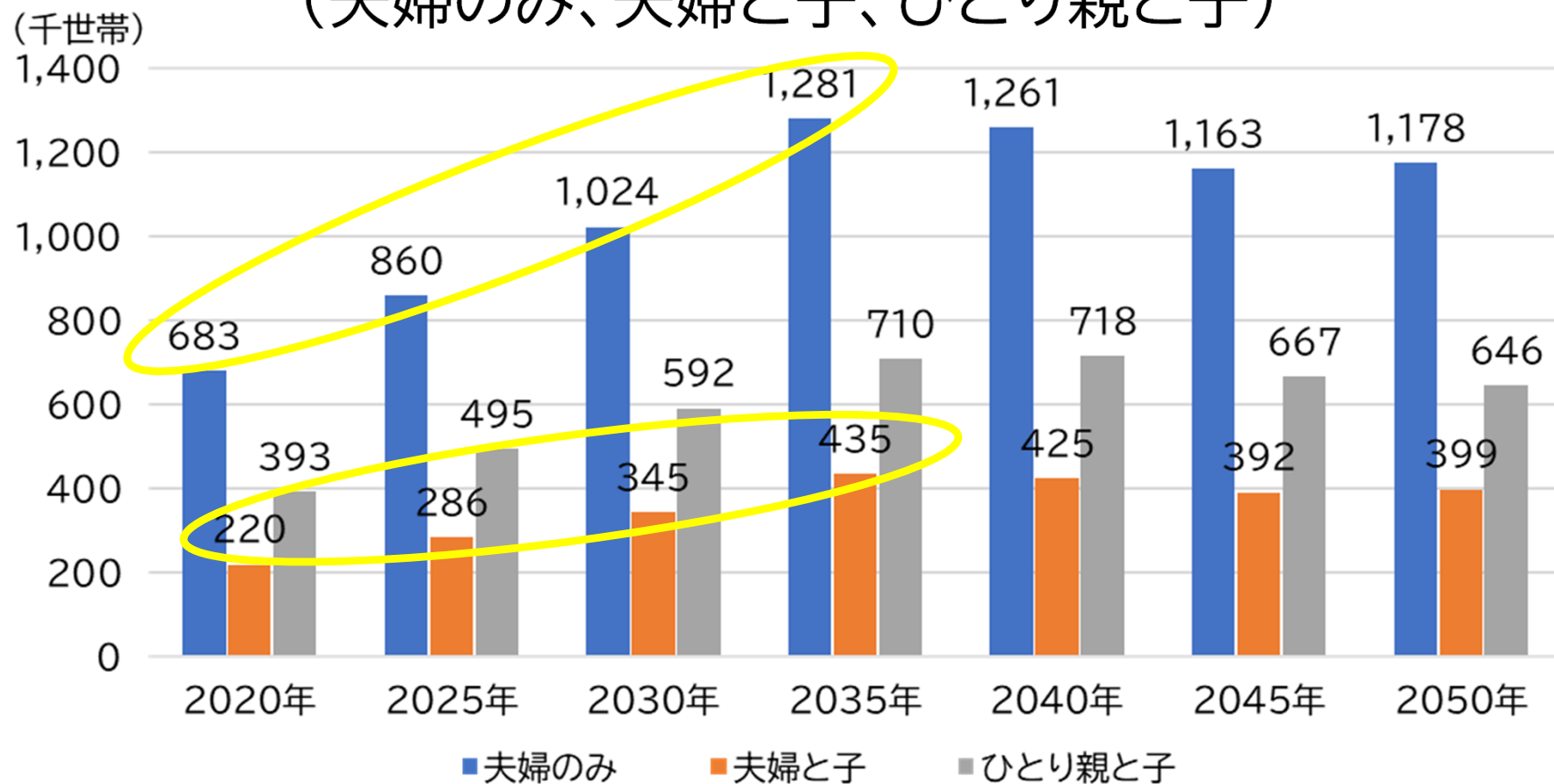


出典:国勢調査

- 45～49歳**男性**の＜未婚者／総数＞の割合は、全国25.8%、中野区28.2%
→＜未婚＋配偶関係不詳／総数＞の割合は、全国30.8%、中野区45.8%
- 45～49歳**女性**の＜未婚者／総数＞の割合は、全国17.0%、中野区24.9%
→＜未婚＋配偶関係不詳／総数＞の割合は、全国20.3%、中野区35.2%

急増する超高齢核家族

85歳以上の世帯主の核家族
(夫婦のみ、夫婦と子、ひとり親と子)



85歳以上の「夫婦のみ」は68万世帯→128万世帯へ、
「夫婦と子」は22万世帯→44万世帯へ倍増！

「2040年」は何が問題になるのか

- ① 団塊の世代は90歳代前半
- ② 団塊ジュニア世代は60歳代後半



現役世代の急減→担い手不足(②より)

医療・介護サービス人材の不足(①②より)



これをもう少し突っ込んで考えてみると…

団塊の世代が90歳代前半

- 90歳代前半はもっとも死亡数が多い
- 団塊の世代は婚姻率も高く、子どもがいる割合が高い
 - 別居の子がいる場合もあれば、「8050」世帯の場合も
- 終身雇用制度のもとで働いていた人が多い
- 年金額はそれなりにある人が多い
- 持ち家の割合が高い



看取り数が激増→ターミナルケアの需要激増

家族の存在を前提とした制度
→本人の意思確認、契約行為、各種手続き等

家族がいることによる問題
→虐待(被害者／加害者)、「8050」、相続問題等

団塊ジュニア世代が60歳代後半

- 60歳代後半は死亡率も低く、実質的にはまだまだ元気な人が多い
→さまざまな形で働く人が増加
- 未婚者の割合が高い
→「高齢・未婚・単独世帯」「8050世帯」の増加
- 結婚したとしても離婚、死別等で単独世帯も多く、身寄りのない人も増加
- 年金額は団塊の世代に比べ減少



高齢就業者数が激増→働き方、職場環境等の整備

家族がいないことを前提とする制度への転換
→本人の意思確認、契約行為、金銭管理、死後手続き等

高齢貧困世帯の増加
→生活扶助費の増加

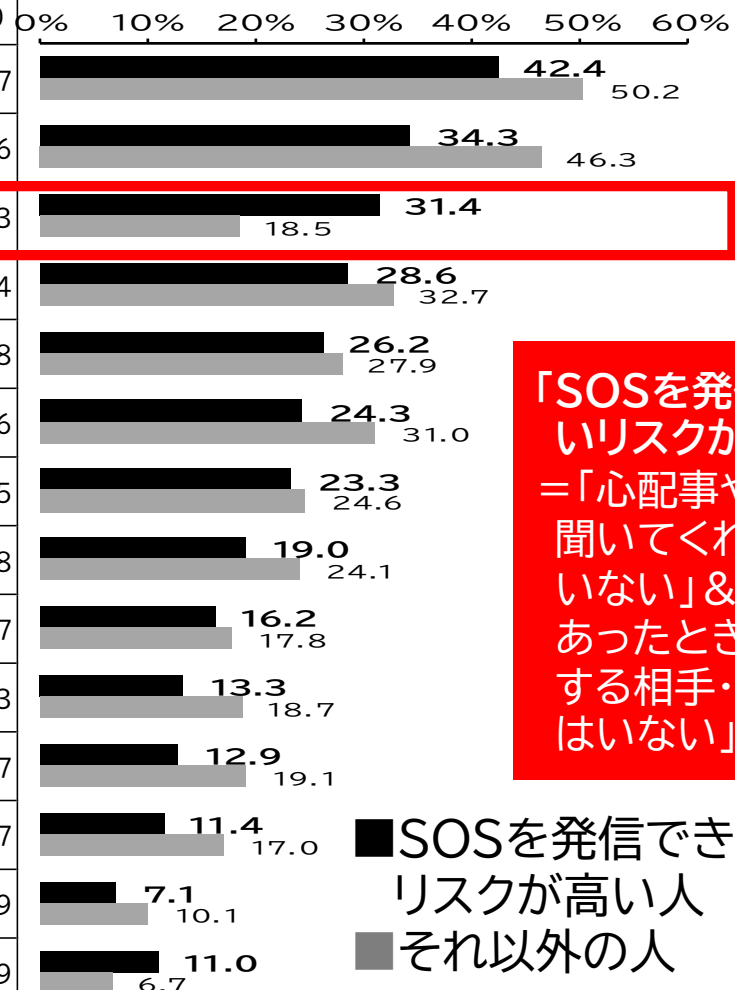
【SOSを発信できないリスクの高い人】

3割は「何もしなくていい」居場所を求めている

区内にあったらよいと思う居場所(複数回答)

	統計的な判定	SOSを発信できないリスクが高い人		それ以外		全体	
		n	%	n	%	n	%
全体	—	210	100.0	3,159	100.0	3,369	100.0
無料で使える	*	89	42.4	1,587	50.2	1,676	49.7
家の近所にある	**	72	34.3	1,464	46.3	1,536	45.6
何もしなくていい	**	66	31.4	584	18.5	650	19.3
情報が得られる		60	28.6	1,033	32.7	1,093	32.4
好きなことをしていてよい		55	26.2	881	27.9	936	27.8
誰でも使える(登録などが不要)	*	51	24.3	979	31.0	1,030	30.6
好きなだけいることができる		49	23.3	777	24.6	826	24.5
インテリアなどがおしゃれな空間		40	19.0	762	24.1	802	23.8
専門職などがいて相談できる		34	16.2	561	17.8	595	17.7
自分が他の人の役に立てることがある		28	13.3	590	18.7	618	18.3
誰かとおしゃべりができる	*	27	12.9	604	19.1	631	18.7
簡単な作業など、やることがある	*	24	11.4	537	17.0	561	16.7
限られた人だけが使える		15	7.1	319	10.1	334	9.9
その他	*	23	11.0	211	6.7	234	6.9

中野区暮らしの状況と意識に関する調査(2020年)



「SOSを発信できないリスクが高い人」
=「心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない」&「何かあったときに相談する相手・相談機関はない」

■ SOSを発信できない
リスクが高い人
■ それ以外の人

多様化する中高年層の例

健康&好奇心旺盛

- ・「生涯現役」で働き続ける人も
- ・退職後、起業
- ・仕事のかたわら趣味活動
- ・自ら情報収集
- ・コミュニケーション力高い

健康&引っ込み思案

- ・会話は家族だけ
- ・単独世帯はひきこもりになりやすい
- ・「趣味＝健康・長生き」になりがち
- ・限られた情報源

コミュニケーションが 苦手

- ・自慢や愚痴をはなしがち
- ・人の話を聞くことが苦手

不健康&引っ込み思案

- ・仕事をしていない65歳未満は制度の隙間に陥りやすい(若くても単独世帯なら孤独死の可能性が高い)
- ・8050世帯の「50」

「つながり」と「安心」について思うこと

- 「つながり」が常に「安心」になるとは限らない
→ 人間関係はストレスになったり、傷つくこともある
- それぞれの人の性格、配偶関係、家族構成、健康状態、従業状態等のほか、地域性によって、どのような「つながり」が「安心」になるのかは異なる
→ 多様な場を選択できる環境が必要
- 「つながり」の「場」から見れば、多様な「場」が、重層的に地域に存在し、それぞれの「場」自体が相互につながっていることが重要ではないか
→ “線”ではなく“面”でつながるイメージ

ご静聴ありがとうございました